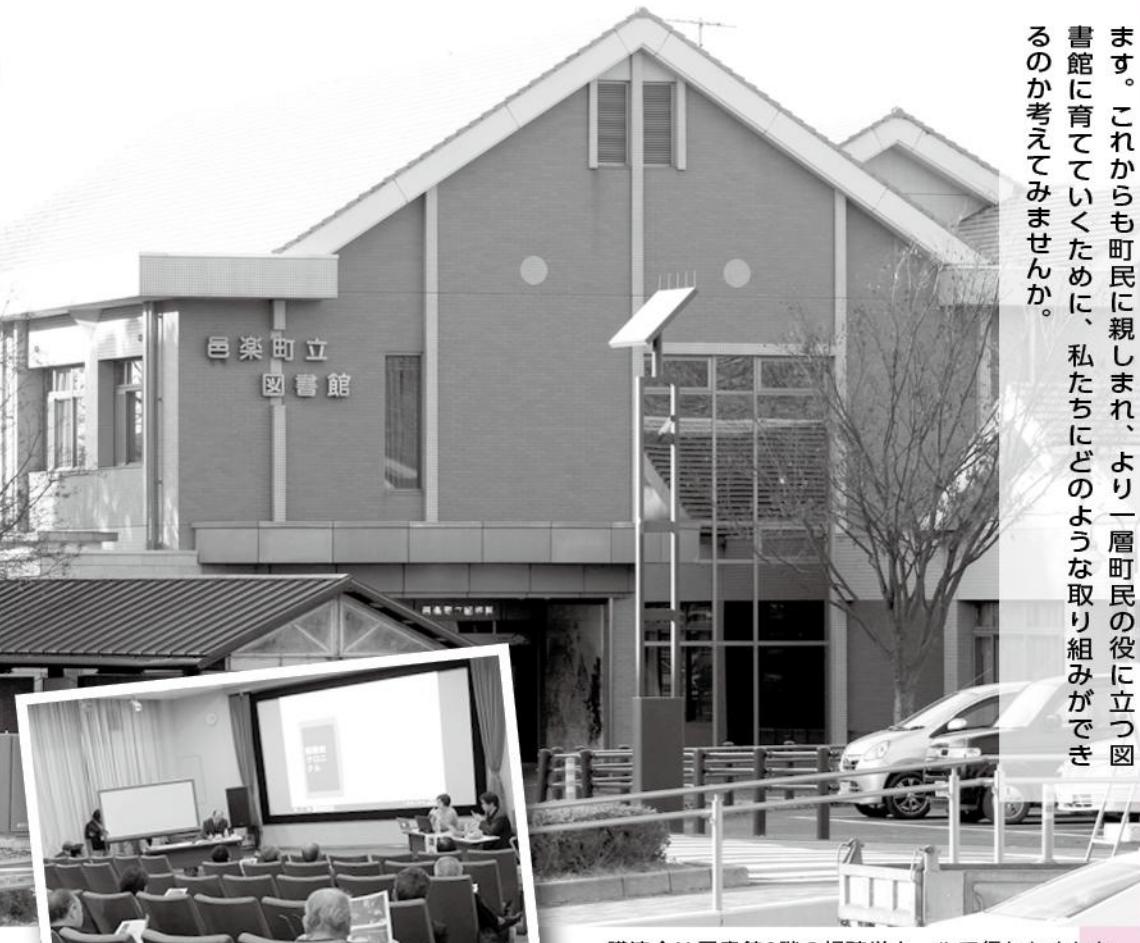


未来をつくる

まちの図書館

町立図書館は今年で開館から25年がたちました。今は20年連続で県内での利用率第1位を誇り、町内外の人から親しまれています。これからも町民に親しまれ、より一層町民の役に立つ図書館に育っていくために、私たちにどのような取り組みができるのか考えてみませんか。



←講演会は図書館2階の視聴覚ホールで行われました

Close Up

図書館の未来をどう考えるか

1月18日、町立図書館で図書館講演会が開催されました。ジャーナリストの猪谷千香さん、プロデューサーの岡本真さんの二人をお招きし、「これからの図書館をかんがえよう—邑楽町図書館の未来—」をテーマに講演を行いました。

岡本 邑楽町はすごく良い図書館を持っています。こんなに立派な図書館があるのは、ちょっと衝撃でした。現在日本全体の人口が減り続けるなかで、どうしたらこの町に人が住み続けてくれるかを考えたときに大切なことは、教育や文化がどれだけ高い水準にあります。近年では「課題解決型図書館」「ビジネス支援型図書館」といった、地域や町民の課題を解決し手助けできるような場としての図書館というものが注目されています。

猪谷 一般的な図書館は貸し出しが主なサービスだと思します。近年では「課題解決型図書館」「ビジネス支援型図書館」といった、地域や町民の課題を解決し手助けできるような場としての図書館というものが注目されています。

猪谷 千香さん
Igaya Chika

ジャーナリスト。新聞社記者として、文化部などを経験。現在は弁護士ドットコムニュース編集部に所属し、図書館や地方行政の取材を続けている。著書に『町の未来をこの手でつくる』(幻冬舎)、「つながる図書館』(筑摩書房)など。



岡本 真さん
Okamoto Makoto

アカデミック・リソース・ガイド株式会社(arg)代表取締役、プロデューサー。ヤフー株式会社でYahoo!知恵袋のプロデュースなどを担当し、2009年に起業。日本各地で図書館のプロデュースに携わる。著書に『未来の図書館、はじめます』(青弓社)など。

岡本
家としての司書や行政の人はもちろん、町民の皆さんも含めた全員が同じ目標を持って協力することが大事です。

猪谷
図書館専門

岡本
町民全体で話し合える場を設けてはいかがでしょうか。思いを持つ人たちが本気で意見をぶつけることによって、図書館やまちの未来を考える話し合いの機会を設けてはいかがでしょうか。

全国には、どんな図書館があるの？

図書館というと、資料を探して貸し出しを行ったり、静かなスペースで勉強したりすることを想像すると思いますが、現代ではさまざまな図書館があるんです。あなたはどんな図書館に魅力を感じますか。

武蔵野プレイス ★東京都武蔵野市



図書館をはじめ生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援の4つの機能を備えた複合機能施設。1階には館内の図書を持ち込めるカフェ、地下2階には青少年が自由に過ごせるスタジオラウンジがあります。



舟橋村立図書館 ★富山県舟橋村

面積が日本で最も小さい自治体ですが、人口増加率は富山県内トップ。駅と図書館が一体化しています。

紫波町図書館 ★岩手県紫波町



駅前の町有地を公民連携手法により整備。産地直売所などの官民複合施設の中に図書館があります。

県立長野図書館 ★長野県長野市



これからの図書館の在り方を県内市町村図書館などに向けて提案するために「共知・共創（共に知り、共に創る）」をコンセプトとした空間にリノベーションされました。

参加者の質問に
答えてくれました

もっと気軽に、図書館を利用しよう



出前図書館

町立図書館では、これまで町民の皆さんに寄り添い、お役に立てる図書館を目指してさまざまな工夫をしてきました。より良い図書館にしていくために、私たちはどうなことを考えられるでしょうか。



研修や会議について理解を深めるために、図書館がお手伝いをします。テーマは決めてもらいますが、本については図書館にお任せください。



移動図書館

町内の施設に資料を配達しています。
詳細は本紙21ページに掲載しています。

配本サービス



高齢者や障がいがある人に対して、図書館職員が直接、資料を自宅に届けるサービスです。

講演の中で奈良県の図書館の情報館が印象に残りました。寄席などいろいろなイベントを行っています。県内外問わず人が訪れることでコミュニティーができ、その団体がまた図書館を盛り上げていくサイクルは素晴らしいと思います。

町立図書館は年一度、図書館の在り方について町民全員で見直すための図書館講演会を開催しています。新しい取り組みも始めているので、皆さんに図書館をいつでも身近なものに感じてほしいと思います。

Close Up /

図書館の未来をどう考えるか

みんなで図書館の未来を話そう

町立図書館では、未来の図書館の仕組みづくりを考えるために誰でも参加できる話し合いの場をつくる予定です。
詳細が決まりましたら、ぜひご参加ください。

町立図書館 ■ 88-5900

町立図書館 司書
若井 邦香 係長



これまで町民の皆さんに寄り添い、お役に立てる図書館を目指してさまざまな工夫をしてきました。

より良い図書館にしていくために、私たちはどうなことを考えられるでしょうか。

時代に合った工夫をすべき
これまでほど図書館で「お静かに」と言う必要があるのでしょうか。例えば飲食禁止は完全に時代に逆行していると私は思います。おしゃべりしても考え方を改める時期ではないのかなと思います。

他の図書館では、どうしても静かな環境を望む人のためにフワ依エットルーム（静寂室）を併設するなど、工夫をしています。

図書館の規模としては小さいですが、さまざまなイベントをやっているところがあります。館内が狭いので大きな音が漏れてしまうんです。そうした日は図書館の掲示板に、「イベントをやっていますので、騒がしくなります。ご了承ください」と張り紙がしてあります。

あらかじめ周知することで利用者の理解も得られることがあります。



これまでほどの工夫をすべき時代に合った工夫をすべき

先生が言つた「交流」について。図書館にも気さくに会話をできる、雑談をしながら過ごせるところがあれば良いと思うんですが。



あらかじめ「周知」が大事



それぞれの地域の中でどう考えていくか

だと思います。なぜなら地域における教育の在り方に関わりますから。

どうすればこの図書館を上手に使えるのかを、子どもを交えて、図書館ルールのつくり方を話し合うべきだと思います。



図書館は普通であれば大人優先と考えられていて、ちょっとでも声を出せば子どもは大人に怒られます。ある図書館では「子どもの声は未来の声」とし、多少子どもたちが大きな声を出しても、成長を見守ってもらっています。

図書館は本来静かにするべき場所であり、マナーを守ることの大切さを小さい子どもに教えることも必要だと思います。先生はどうお考えですか。



ください」と宣言しています。もちろん、公共のマナーを学ぶ場でもありますので、保護者にはご協力をお願いしますということも理解してもらっています。

図書館は普通で大人優先なのか